

シマカンギク

国語事典で「野菊」を引いてみたら、「野に咲く菊、特にヨメナ」とありました。タミさんのイメージカラーは薄紫だったのでしょいか。

それはともかく、写真の野菊はシマカンギク。舌状花も筒状花も黄色で、葉の形も栽培菊にそっくりです。

漢字で書くと島寒菊。玄界灘の島々にたくさん自生していることから名づけられたようですが、中国大陸から西日本にひろく分布し、名前とはうらはらに山間部に多いようです。

栽培菊に似ているのも当然でした。栽培菊は、唐時代に中国で生まれ、遣唐使によって日本にもたらされましたが、このシマカンギクとチョウセンノギクの交配によりできたものだそうです。長年の品種改良により豪華絢爛を競うようになった栽培菊も、元をただせば直径 2 センチほどの清楚な花だったのですね。

写真のシマカンギクは、十年ほど前、水没地で撮影したものです。今でも少しは、ハイヅカ湖周辺に生き残っているものがあると思うのですが、なかなか探し出せずにいます。

